

保証書

持込修理 無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態で、保証期間内に故障した場合のみ無料修理いたします。
2. 保証期間内でも次の場合には有料修理となります。
(イ) 使用上の誤り、または、自己修理、分解、調整、改造などによる故障及び損傷
(ロ) お買い上げ後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷
(ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧、水掛けなどによる故障及び損傷
(二) 消耗または摩耗した部品、付属品の交換
(ホ) 本書のご提示がない場合
(ヘ) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは文字を書きかえられた場合(但し、販売店シールや領収書でも未記入項目の代用となります。)
(ト) 本品本来の用途以外に使用された場合の故障及び損傷
(チ) 一般家庭用以外(例:業務用、または業務用に準ずる使用方法)で使用された場合の故障及び損傷
3. ご贈答、ご転居などで本保証書に記入のお買い上げ販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
4. 本書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.
5. 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

商品名	AM/FMステレオ ダブルカセットレコーダー	★お買い上げ日： 年 月 日
型番	RCS-W960R	品番 07-8926 保証期間：本体1年間(お買い上げの日から)
お客様	ふりがな ★お名前	様
	★ご住所	〒 —
電話 ()		
修理メモ		
販売店	★住所 店名 電話	印

(注)★印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとに
おいて無料修理をお約束するものです。

※この保証書によって保証書を発行している者(保
証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様
の法律上の権利を制限するものではありません。

※保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、
お買い上げの販売店または弊社修理ご相談セン
ターにお問い合わせください。

※お客様にご記入いただいた保証書の内容は、保証
期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動
のために記載内容を利用させていただく場合があ
りますので、ご了承ください。

◎OHM 株式会社 オーム電機
〒342-8502 埼玉県吉川市旭3-8
<https://www.ohm-electric.co.jp>

製品に関するお問い合わせは お客様相談室へ

●通話料無料 ●携帯・IP・公衆電話からは
0120-963-006 048-992-2735

電話
受付 平日 9:00~17:00
※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます

修理に関するご相談は 修理ご相談センターへ

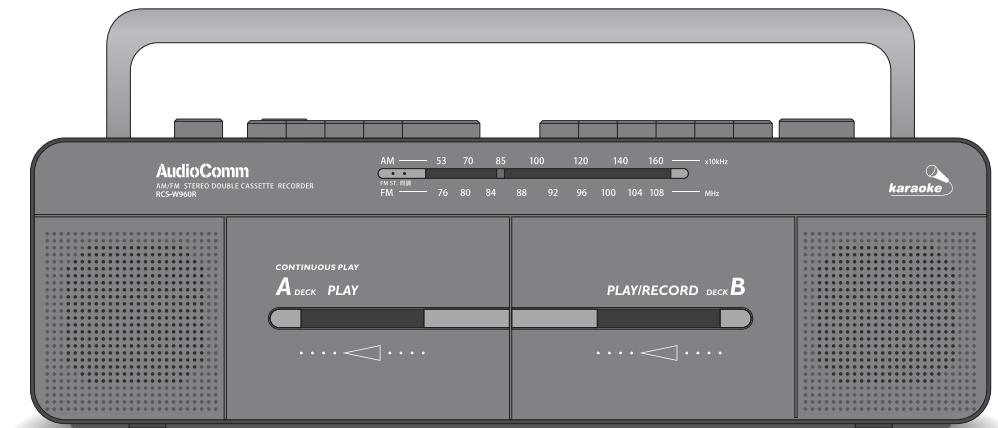
電話
受付 **048-992-3970** 平日 9:00~17:00
※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます

AudioComm®

AM/FMステレオ ダブルカセットレコーダー

型番 :RCS-W960R

保証書付 取扱説明書



このたびは、AudioComm® AM/FMステレオダブルカセットレコーダーを
お買い上げいただき、誠にありがとうございました。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にご使用ください。また、お読みになった後も、
ご使用時にいつでも見られるよう大切に保管してください。

目次

免責事項	1	ダビング録音をするには	10
著作権について	1	マイクの使いかた（カラオケを楽しむ）	11
安全上のご注意	1~3	マイクを使って録音するには	11~12
電源について	4	ヘッドホンの使いかた	12
ご使用になる前に（カセットテープについて）	4~5	お手入れのしかた	12
各部の名称	6	故障かなと思ったら	13
ラジオを聞く	7	主な仕様	14
カセットテープを聞く	8	保証書とアフターサービスについて	14
ラジオ放送を録音するには	9	保証書	裏表紙

免責事項

下記の事項につきましては
弊社は一切の責任を負いかねます。

- 弊社の責任によらない製品の損傷や、破損、または改造による故障や不具合
- 本製品によって生じたデータの消失または破損
- 本製品のために費やした時間及び経費
- 本製品を運用した結果もたらされた損害
- 本製品よりもたらされた、直接的、間接的な効果及び利益の損失
- 本製品をご使用になって生じたあらゆる結果及び、直接的、間接的なシステム、機器及びその他の異常

著作権について

放送やレコードその他の録音物（ミュージックテープ、カラオケテープ、コンパクトディスクなど）の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。従ってそれらから録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

安全上のご注意

電気製品は間違った使いかたをすると火災や感電による人身事故につながる可能性があります。このような事故を防ぐために、この取扱説明書をよくお読みになり、注意事項を必ずお守りください。注意事項は、取り扱いを誤った場合に予想される事故の大きさによって3段階で表示しています。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の方への危害や財産への損害を未然に防止するためにいろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようにになっています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、火災、感電、破裂などにより死亡したり、重傷などを負う可能性が想定される内容です。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によりけがをしたり、周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の使用例



△記号は、注意(危険、警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。
(左図の場合は「感電注意」が描かれています。)



○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
(左図の場合は「分解禁止」が描かれています。)



●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
(左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。)

！警告

コンセントから抜く	<p>万一、煙が出ていて、変なにおいや音がするなどの異常を感じたら、すぐに本機の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く</p> <ul style="list-style-type: none"> ●そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。 ●煙が出なくなるのを確認して販売店または弊社お客様相談室までご連絡ください。 	接触禁止	雷が鳴り始めたら、安全のため本機及び電源コードに触れない
コンセントから抜く	<p>万一、内部に異物や水などが入った場合は、電源プラグをコンセントから抜く</p> <ul style="list-style-type: none"> ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●販売店または弊社お客様相談室までご連絡ください。 	禁止	本機の上に、例えば火のついたロウソクなど、火災の原因となるようなものを置かない ●火災の原因となります。
接続場所を選ぶ	<p>電源プラグはすぐに手が届く位置にある家庭用コンセントに接続する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●手が届きにくい場所にあると、異常があつたときに対応が遅れるおそれがあります。 ●本機の電源を切っただけでは、完全に電力を遮断できません。異常が生じたときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。 	禁止	狭い場所や壁に押し付けるなど、通気が妨げられる場所に設置しない。また、テープクロスやカーテンなどをかけて通気口をふさがない ●過熱して火災・感電の原因となります。
分解禁止	<p>本機を分解、修理、改造しない</p> <ul style="list-style-type: none"> ●火災・感電の原因となります。 	禁止	本機や電源コードの上に重いものをせたり、コードの上に本機をのせない ●コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。
禁止	<p>海外では使用しない。自動車・船舶などの直流DC電源には接続しない</p> <ul style="list-style-type: none"> ●火災の原因となります。 ●この機器を使えるのは日本国内のみです。 	禁止	電源コードを敷物などで覆わない ●気づかず重いものをのせてしまい、火災・感電の原因となります。
コードの使用中止	<p>電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）、使用を中止する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●修理をご依頼ください。 	禁止	本製品を使用時は必ず付属の電源コードを使う。また、付属の電源コードは絶対に他の製品には使用しない ●付属の電源コードは本製品専用です。 ●製品の破損、もしくは火傷・発煙・火災の原因となります。
乾電池に注意	<p>乾電池は幼児の手の届かないところへ置く。本機から乾電池を取り外した場合は、小さなお子様が誤って飲み込むことがないようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ●万一、お子様が飲み込んだ場合には、ただちに医師に相談してください。 	禁止	電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない ●コードが破損して火災・感電の原因となります。

！注意

禁止	<p>調理台や浴室、加湿器のそばなど、湯煙や湯気が当たるような場所に置かない</p> <ul style="list-style-type: none"> ●火災・感電の原因となることがあります。 	禁止	<p>電源コードを熱器具に近づけない</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
禁止	<p>本機の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かない</p> <ul style="list-style-type: none"> ●発火・感電の原因となったり、けがや破損のおそれがあります。 	禁止	<p>ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かない</p> <ul style="list-style-type: none"> ●落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

⚠ 注意

	窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない ●キャビネットや部品に悪い影響を与え、故障の原因となることがあります。		お手入れの際には安全のため電源プラグをコンセントから抜く ●感電の原因となることがあります。
	湿気やほこりの多い場所に置かない ●火災・感電の原因となることがあります。		持ち運びするときは、アンテナを縮める ●伸ばしたまま運ぶとアンテナが引っ掛けたり、当たったりなどしてけがの原因になることがあります。
	電源を入れる前には、音量を最小にする ●突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。		乾電池は、直射日光、火などの過度の熱にさらさない ●液もれしたり、性能や寿命を低下させるおそれがあります。
	乾電池は、極性表示(プラス+とマイナス-の向き)に注意し、表示どおり正しく入れる ●間違えると乾電池の破裂、液もれにより火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。		移動させるときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く ●コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
	指定以外の乾電池は使用しない。 また、新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使わない ●乾電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。		お子様がカセットドア内に手を入れないように注意する ●けがの原因となることがあります。
	ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない ●感電の原因となることがあります。		ヘッドホン使用時は音量を上げすぎない ●耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない ●コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 ●必ずプラグを持って抜いてください。		旅行などで長期間本機を使わないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜き、乾電池も取り外す ●火災・液もれの原因となることがあります。
			電磁波を発生させる機器(携帯電話、テレビ、パソコン、モニターなど)に近づけない ●電磁波によりお互いの機器が干渉し、ノイズや混信の原因となります。

乾電池を安全にお使いいただくために

液もれ、発熱、破裂等の事故を防ぐために、以下のことをお守りください。

⚠ 警告

- ・火中への投入、加熱、分解をしない
- ・取り外した乾電池を幼児に触らせない
- ・ショートさせない
- ・直射日光や火などの過度の熱にさらさない

⚠ 注意

- ・+ - の表示どおりに入れる
- ・指定以外の乾電池を入れない
- ・使用推奨期限内の乾電池を使用する
- ・古い乾電池と新しい乾電池、マンガンとアルカリなど種類の異なる乾電池を一緒に入れない
- ・使い切った乾電池はすぐに取り出す
- ・しばらく使わないときは乾電池を取り外しておく

電源について



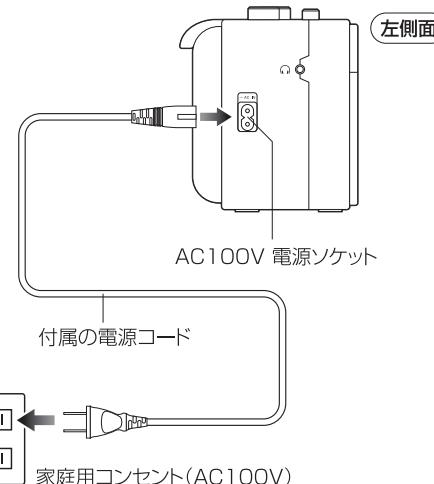
- 電源コードを抜き差ししたり、乾電池を出し入れするときは、電源が切れた状態で行なってください。
- 電源を入れる前に音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

家庭用電源で使う場合

付属の電源コードで本機のAC100V電源ソケットと家庭用コンセントを接続します。

●乾電池が入っている場合でも、電源コードを接続すると自動的にAC電源に切り替わります。

●本機を使用しないときは電源コードをコンセントから外してください。

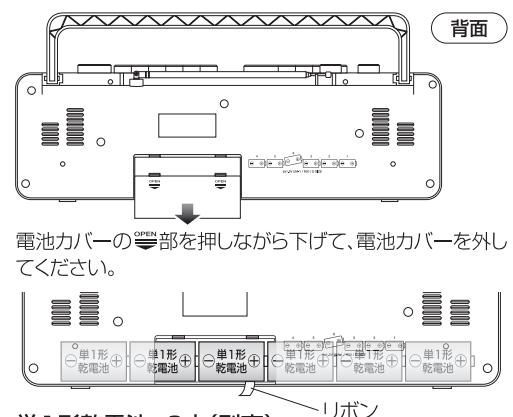


乾電池で使う場合

●アルカリ乾電池のご使用をお薦めします。

●電池カバーを外し、乾電池の+と-を間違えないように、単1形乾電池6本を入れます。

※長時間使用するときや大切な録音をするときは、付属の電源コードを使用してください。



単1形乾電池×6本(別売)

本体の刻印を参照し、正しい向きで入れてください。最後の1本をリボンの上から入れておくと、出し入れしやすくなります。

※付属の電源コード(ACコード)は本製品専用です。家庭用電源でご使用の際には、必ず付属の電源コード(ACコード)をお使いください。また、付属の電源コード(ACコード)は絶対に他の製品には使用しないでください。製品の破損、もしくは火傷・発煙・火災の原因となる場合があります。

※長期間使用しないときや、長期間電源コード(ACコード)で使用する場合は、必ず乾電池を取り出してください。乾電池から微弱な電流が流れるため、電池を消耗させるだけでなく液もれの原因となります。

ご使用になる前に(カセットテープについて)

本機で使用できるカセットテープ

C-60(再生／録音時間が60分)以内のノーマルテープ(TypeI)をお使いください。



C-60以内のノーマルテープ(TypeI)

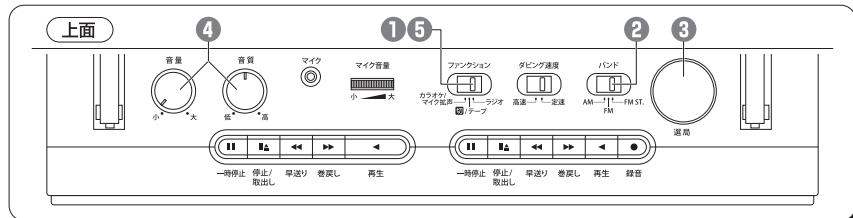


ハイポジションテープ(TypeII)
メタルテープ(TypeIV)
エンドレステープ
C-60を超えるノーマルテープ

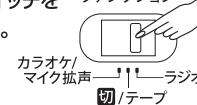
●ハイポジションテープ(TypeII)やメタルテープ(TypeIV)、エンドレステープは使えません。

●ノーマルテープの場合でも、C-60を超える長時間テープは通常のカセットテープに比べて非常に薄いため、伸びたり、回転部分に巻き込まれるなどのトラブルの原因になりますので使わないでください。

ラジオを聴く



- 1 ファンクション切換スイッチを「ラジオ」に合わせます。



- 2 バンド切換スイッチで、「AM」、「FM」、「FM ST.」(FMステレオ)のいずれかを選びます。

AM : AM放送を受信します

(モノラル音声出力)

FM : FMステレオ放送を

モノラル音声で出力します

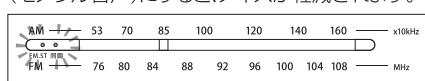
FM ST. : FMステレオ放送をステレオ音声で出力します



- 3 選局ツマミを回して、聴きたい放送局を受信します。
同調すると、同調ランプが赤く点灯してお知らせします。※電波の状態によっては、点灯しない場合があります。

また、「FM ST.」を選択している場合は、良好なステレオ電波を受信するとFMステレオランプが緑で点灯します。

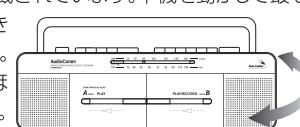
電波が弱くFMステレオで雑音が多い場合は、「FM」(モノラル音声)になると、ノイズが軽減されます。



受信状態を良くするには

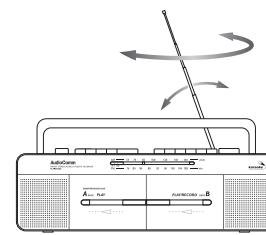
●AM放送の受信

本機にアンテナが内蔵されています。本機を動かして最も受信状態の良い向きを見つけてください。室内の場合、窓際のほうが良く受信できます。



●FM放送の受信

ロッドアンテナを伸ばし、長さ、方向、角度を変え、受信状態が最も良くなるように調節します。



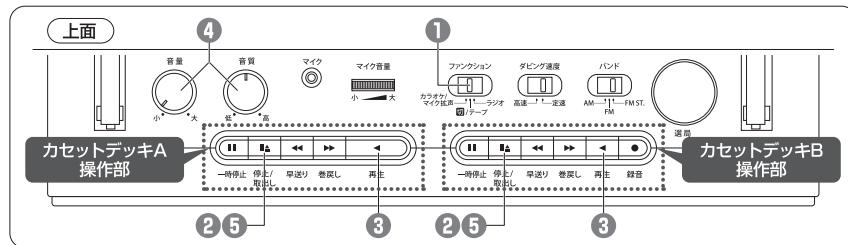
ご注意

- テレビの近くでAMを受信すると、雑音が入ることがあります。また室内アンテナを使用しているテレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このようなときは、本機を離してご使用ください。
- 持ち運ぶときは、目をついたり危険ですので、必ずFMロッドアンテナを縮めてください。

カセットテープを聴く



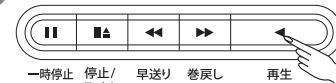
本機で再生できるカセットテープの種類やセミオートストップ機能、その他のヒントや注意事項は、P.4~5もあわせてご確認ください。



- 1 ファンクション切換スイッチを「切／テープ」に合わせます。

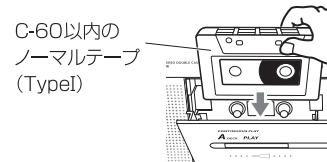


- 3 再生ボタンを押すと、再生が始まります。



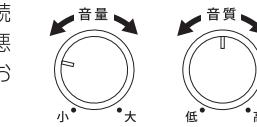
- 2 停止／取出しボタンを押してカセットドアを開け、カセットテープを正しく入れます。

本機はダブルカセットデッキですので、A・Bのどちらでもカセットテープを再生できます。

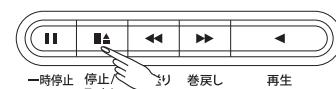


テープの見える側を上に、再生する面を手前にして入れ、カセットドアを手で押して閉めてください(テープは右から左へ走行します)。

テープ装着後はカセットドアを確実に閉めてください。



- 5 停止／取出しボタンを押すと、再生が停止します。
カセットテープを取り出し、ケースに入れて保管してください。



基本操作ボタンの機能

一時停止(II)	再生中に押すと、再生を一時停止します。もう一度押すと、再生を再開します。
停止／取出し(II)	早送り・巻戻し・再生・録音中に押すとそれらの動作を停止します。 停止中に押すとカセットドアが開きます。
早送り(↔)	押すとテープを左側のリールに早送ります。
巻戻し(↔)	押すとテープを右側のリールに巻戻します。
再生(↔)	押すとテープを再生します。

コンティニュアスプレイ(連続再生機能)について

カセットデッキAからカセットデッキBへの連続再生ができます。

- 1 先に聴きたいテープをカセットデッキAに、次に聴きたいテープをカセットデッキBにセットし、カセットデッキAを再生します。



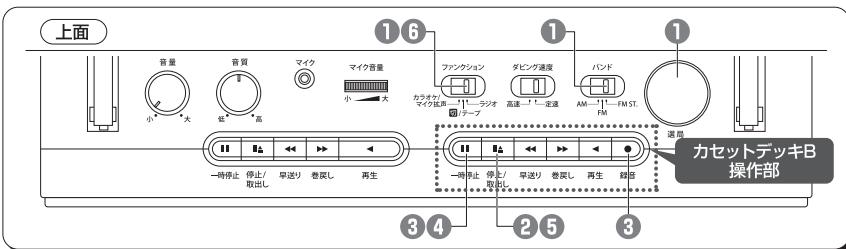
- 2 カセットデッキBの一時停止ボタンを押した後、再生ボタンを押して一時停止状態にします。カセットデッキAのテープ片面の再生が終わると、カセットデッキBの一時停止が解除され、再生が始まります。



ラジオ放送を録音するには



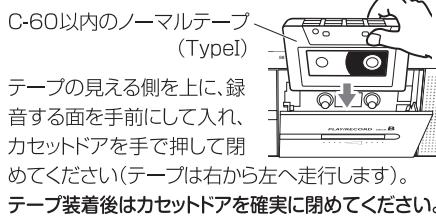
カセットデッキBのみ録音ができます。また、本機で録音できるカセットテープの種類や録音を始める前の準備、その他のヒントや注意事項は、P.4~5もあわせてご確認ください。



- 1** ファンクション切換スイッチを「ラジオ」に合わせ、録音したい放送局を受信します。
P.7を参照して操作してください。



- 2** カセットデッキBの停止／取出しボタンを押してカセットドアを開け、カセットテープを正しく入れます。



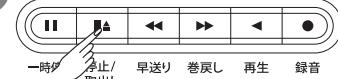
- 3** 一時停止ボタンを押した後、録音ボタンを押します=録音待機状態
録音ボタンを押すと再生ボタンも同時に押し込まれます。



- 4** もう一度、一時停止ボタンを押すと録音が始まります。



- 5** 録音を終えるときは、停止／取出しボタンを押します。



- 6** 終了するときは
ファンクション切換スイッチを「切／テープ」に合わせます。
カラオケ/マイク拡声→ラジオ
カセットテープを取り出し、ケースに入れて保管してください。



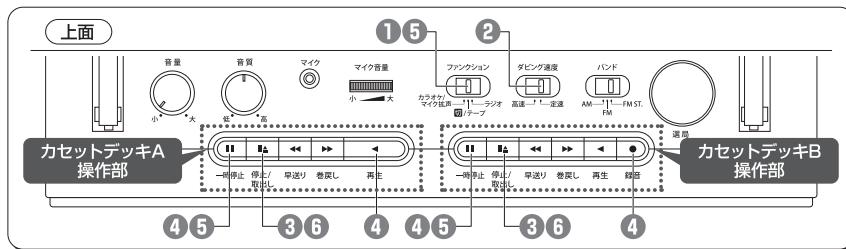
ヒントとご注意

- 受信環境などによりノイズが入る場合があります。できるだけ良好な受信状態のもとで録音してください。
- 録音レベルは自動調節で一定に録音されますので、音量調整ツマミを操作しても録音に影響ありません。

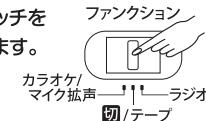
ダビング録音をするには



カセットデッキBのみ録音ができます。また、本機で録音できるカセットテープの種類や録音を始める前の準備、その他のヒントや注意事項は、P.4~5もあわせてご確認ください。



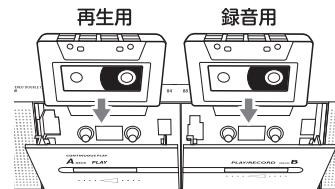
- 1** ファンクション切換スイッチを「切／テープ」に合わせます。



- 2** ダビング速度切換スイッチで高速または定速を選びます。
高速の場合、定速の約1.6倍でダビングできます。
※テープにより異なります。
※ダビング速度切換機能は、ファンクション切換スイッチが「切／テープ」のときのみ有効です。



- 3** カセットデッキAに再生用のカセットテープを、カセットデッキBに録音可能なカセットテープを正しくセットします。

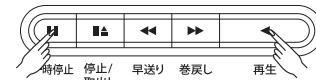


テープの見える側を上に、再生・録音する面を手前に入れ、カセットドアを手で押して閉めてください(テープは右から左へ走行します)。

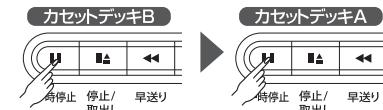
テープ装着後はカセットドアを確実に閉めてください。

- 4** カセットデッキAの一時停止ボタンを押した後、再生ボタンを押します=再生待機
次にカセットデッキBの一時停止ボタンを押した後、録音ボタンを押します=録音待機

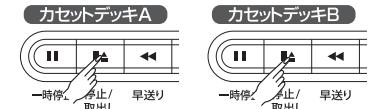
カセットデッキA 生再生待機



- 5** カセットデッキB→カセットデッキAの順でそれぞれの一時停止ボタンを押します=ダビング録音開始



- 6** ダビング録音を終了するときは、それぞれのカセットデッキの停止／取出しボタンを押します。



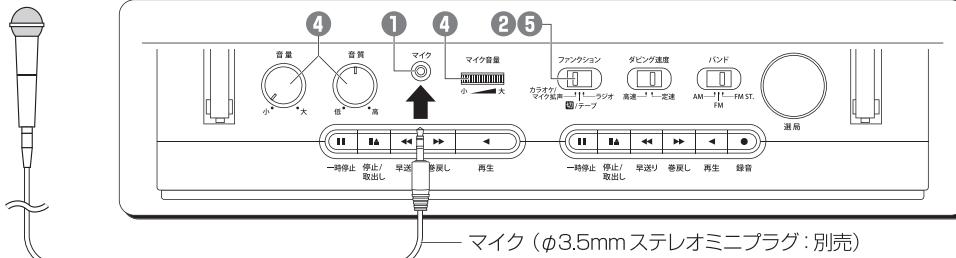
ご注意 ●ダビング録音時は、マイク音声の混入を防ぐため、必ずマイクのプラグをマイクジャックから抜いてください。

シンクロダビング(再生連動録音機能)について

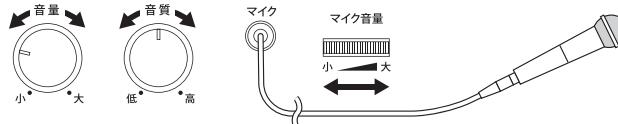
ステップ④～⑤の代わりに、カセットデッキBを録音待機(一時停止と録音ボタンを押した状態)にした後、カセットデッキAの再生ボタンを押すと、自動的にカセットデッキBの一時停止が解除され、ダビング録音が始まります

マイクの使いかた(カラオケを楽しむ)

市販φ3.5mmミニプラグ対応マイク(ダイナミック型)をお使いいただけます。



- 1 本機の電源が切れた状態で、別売のマイクをマイクジャックにつなぎます。
- 2 ファンクション切換スイッチを「カラオケ／マイク拡声」に合わせます。
- 3 カラオケとして使うカセットテープを再生します。
P.8を参照して操作してください。カセットデッキAとBのどちらでも構いません。
- 4 カラオケの再生音とマイクの音量・音質を調整します。
カラオケの音量・音質は、音量調整ツマミ、音質調整ツマミで調整します。マイク音量調整ツマミでは、カラオケに対する相対的なマイクの音量を調節できます。



マイ克を使って録音するには

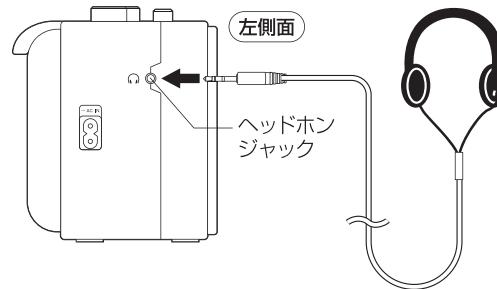
力セットデッキBのみ録音ができます。また、本機で録音できるカセットテープの種類や録音を始める前の準備、その他のヒントや注意事項は、P.4～5もあわせてご確認ください。

- 1 ファンクション切換スイッチを「切／テープ」に、ダビング速度切換スイッチを「定速」に合わせます。
- 2 別売のマイクをマイクジャックにつなぎます。
- 3 カセットデッキBにカセットテープを正しく入れます。
P.8を参照して操作してください。
- 4 一時停止ボタンを押した後、録音ボタンを押します
=録音待機
- 5 もう一度、一時停止ボタンを押すと録音が始まります。
- 6 録音を終了するときは、停止／取出しボタンを押します。

マイクの音とカラオケ(カセットテープ)の音を重ねて録音するには

- 1 別売マイク(φ3.5mmミニプラグに対応)を接続し、ファンクション切換スイッチを「カラオケ／マイク拡声」に、ダビング速度切換スイッチを「定速」に合わせます。
- 2 「ダビング録音をするには」(P.9参照)のステップ③以降と同じ手順でダビング録音を開始し、同時にマイクに向かって歌います。録音終了の操作も、「ダビング録音をするには」のステップ⑥と同じです。

ヘッドホンの使いかた



- 別売のステレオヘッドホン(φ3.5mm ステレオミニプラグ)をヘッドホンジャックにつなぎます。ヘッドホンをつなぐと、スピーカーからの音は聴こえなくなります。
- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。
- 家庭用コンセントでご使用時、ヘッドホンでお聴きになると、ハム音(ラジオなどの音声に混じって聞こえる「ブーン」という音)が耳障りになるときがあります。その場合は乾電池にてご使用になられるようお願いいたします。

お手入れのしかた

※お手入れの前には、あらかじめ電源コードや乾電池を外し、誤って電源が入らないようにしてから行ってください。

ヘッド部の清掃について

ヘッドやキャブスタン、ピンチローラーは長い間使っていると磁粉やゴミ、ほこりなどが付着して汚れてきます。汚れがひどくなると、音質が悪い、音が小さい、録音できない、前の音が消えないで残る、などの症状が出ます。また、テープが巻き込まれる原因にもなりますので、定期的にヘッド部を清掃してください。

清掃方法

カセットドアを開け、市販のクリーニングキットでヘッドやピンチローラー、キャブスタンなどの汚れを拭き取ります。なお、次に使うときは、内部についたクリーナー液が十分に乾いてから、カセットテープを入れてください。



録音再生ヘッドの消磁を行なうには市販の消磁器をお使いください。カセットタイプの消磁器をお使いになるときは、必ず再生ボタンのみを押し込んで消磁してください。詳しくはヘッド消磁器の説明書をご覧ください。

※本機の消去ヘッドはマグネットタイプになっていますので消磁しないでください。

キャビネットの清掃

- キャビネットや操作ボタンなどが汚れたら、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどい場合は、水で布を湿らすか、中性洗剤を少し布につけて拭き、その後にから拭きをしてください。
- 電源コードのプラグにほこりがたまると、発火する危険があります。プラグをコンセントから抜いて時々清掃してください。
- シンナー、ベンジン、アルコールなどは使わないでください。変質したり、塗料がはげることがあります。



シンナー、ベンジン、アルコールは使用しないでください。

故障かなと思ったら

本機の調子がおかしいときは、サービスをご依頼になる前に以下の内容をもう一度チェックしてください。それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店、または、弊社修理ご相談センターにご連絡ください。

症状	チェック項目
共通部	電源コードがはずれて(ゆるんで)いませんか?
	乾電池が正しく入っていますか?
音が出ない	乾電池が消耗していませんか?
	音量が最小になっていませんか?
カセットドアが閉まらない	ヘッドホンジャックにヘッドホンが差し込まれていませんか?
	ファンクション切換スイッチが適切な位置になっていますか?
テープ走行が不安定 テープが走行しない	カセットが逆向きではありませんか?
	操作ボタンを押していませんか?
テープが機械に巻きつく	テープがたるんでいませんか?
	乾電池が消耗していませんか?
録音ボタンが押せない	ピンチローラーやキャブスタンが汚れていませんか?
	テープがたるんでいませんか?
前の録音を完全に消去できない 録音した音がひずむ	カセットドアがきちんと閉まっていますか?
	録音しようとするカセットの誤消去防止用のツメが折れていませんか?
雑音がひどい、音が震える 音飛びがする、高音が出ない	カセットドアがきちんと閉まっていますか?
	カセットが入っていますか?
録音できない	ハイポジション(TypeII)やメタルテープ(TypeIV)を使っていませんか?
	消去ヘッドが汚れていませんか?
ラジオは聴けるのに テープの音が出ない／小さい	ヘッドやピンチローラー、キャブスタンが汚れていませんか?
	テープがたるんでいませんか?
マイク部	乾電池が消耗していませんか?
	(新しい乾電池に替えてください。)
マイクの音が出ない	近くで携帯電話を使用していませんか?(携帯電話を本機から離して使用してください。)
	テレビや蛍光灯の近くでAM放送を受信すると、AM放送に雑音が入ることがあります。またテレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このようなときは本機をテレビから離してください。

主な仕様

■共通部	
電源	AC100V 50/60Hz
	DC9V 単1形乾電池×6本(別売)
定格出力	1.2W×2(r.m.s)
定格消費電力	10W
スピーカー	口径 75mm×2個
周波数特性	100Hz～8kHz
ジャック	ヘッドホン:φ3.5mmステレオミニジャック マイク:φ3.5mmミニジャック(モノラル)
外形寸法	幅 418×高さ 130×奥行 110mm (突起物含まず)
質量	約 1.8kg (乾電池含まず)
■カセットデッキ部	
受信周波数	FM: 76～108MHz (ワイドFM対応) AM: 530～1605kHz
アンテナ	FM: ロッドアンテナ AM: 内蔵フェライトバーアンテナ
■ラジオ部	
受信周波数	FM: 76～108MHz (ワイドFM対応) AM: 530～1605kHz
アンテナ	FM: ロッドアンテナ AM: 内蔵フェライトバーアンテナ
■付属品	
専用電源コード、保証書付取扱説明書	

※乾電池での使用時間の目安は、新品の乾電池使用・音量中程度の場合の目安です。使用状況などによって異なります。
※仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
※本書のイラストは実際の製品と一部異なる場合があります。

保証書とアフターサービスについて

保証書について

この製品には保証書がついておりますので、お買い上げの販売店よりお受け取りください。お受け取りになった保証書は、記載内容及び「販売店、お買い上げ年月日」などの記入事項をお確かめのうえ、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げの販売店にお申し出ください。保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

●調子が悪いときは

修理を依頼される前に、この取扱説明書をよくご覧になり正しく使われているかお調べください。それでも調子が悪いときは、お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。

●保証期間中は

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎた場合は

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理させていただきます。お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。